

中国語話者のための日本語教育研究会主催特別講演会

学習者のための日本語文法研究の可能性を求めて

—アスペクト形式「ている、ていた」を例として—

日時 2017年7月1日(土) 10:30~13:00

場所 一橋大学国際研究館(東キャンパス)4階大教室

アクセス JR中央線国立駅より徒歩10分

(<http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/campus/index.html> 36番の建物)

*入場無料、事前申し込み不要

<内容>

庵 功雄(一橋大学国際教育センター教授)

「日本語教育文法から見た「ている」と「ていた」

張 麟声(大阪府立大学人間社会システム科学研究科教授)

「中国語話者のための日本語教育文法から見た「ている」と「ていた」

<趣旨>

日本語文法研究(日本語学)は、日本語教育との密接な関係のもとに誕生しました。つまり、日本語文法研究は、学習者のためのものとして作られたとも言えるのです。しかし、現在、日本語文法研究と日本語教育が互いに相手のことを考えようとしないう状況が続いています。中国語話者の日本語教育研究会では、そうした状況を打破すべく、中国語話者のために特化した研究のあり方を考えてきました。今回の講演会では、同研究会の創設者である張麟声氏をお招きし、学習者の母語を特定しない日本語教育と、中国語話者に特化した日本語教育という2つの立場から、日本語教育文法について考えます。そのことを通して、日本語学習者にとって習得が難しいことが知られている「ている、ていた」について、どのような説明の仕方が可能なのかについて考えてみたいと思います。(庵功雄記)